

パナソニック システムネットワークス株式会社 福岡事業場 新棟 および 福岡アイランドシティ「照葉のまち」視察報告

出入管理機器委員会 委員 桑原 直樹 (三菱電機株式会社)
中島 浩介 (美和ロック株式会社)

出入管理機器委員会では、これまで定例の活動の一環として、出入管理機器に限定せず、セキュリティシステムを導入している各種施設を見学し、各種システムと人による運用・管理も含めて、如何に施設内の安心・安全及びセキュリティを確保しているかの事例を調査し、セキュリティシステムの普及・促進に向けて紹介をおこなってきた。このたびビル、企業セキュリティの事例として福岡県福岡市にあるパナソニック システムネットワークス株式会社 福岡事業場 新棟、またタウンセキュリティの事例として同市の福岡アイランドシティ「照葉のまち」の調査を行ったので報告する。

視察日

平成24年2月16日（木）～17（金）

参加者

パナソニック システムネットワークス株式会社 橋本TL

出入管理機器委員会 細矢副委員長（パナソニック）、
中島委員（美和ロック）、
安藤委員（アイホン）、
桑原委員（三菱電機）

映像セキュリティ委員会 羽根田委員長（パナソニック）、
根本委員（ホーチキ）、
中村委員（TOA）、
西嶋委員（ソニー）

協会事務局

友廣業務部長

1. パナソニック システムネットワークス株式会社 福岡事業場 新棟 視察報告

■パナソニック システムネットワークス 福岡事業場 新棟（E棟）

平成23年2月に、研究・開発の中心拠点として完成した新棟である。横浜、佐賀、福岡に分散していた、企画・開発部門2500名を同棟内に集結した。ビル全体に、監視カメラやICカードリーダー等によるセキュリティシステムが装備されているほか、屋上緑化、太陽光発電システムによる創エネルギー、蓄エネルギー、エネルギーマネジメントなど、環境配慮型のビルにもなっている。最新のセキュリティシステムと環境ソリューションを実運用で具現化するショウケース的役割も果たしている。

所在地	福岡県福岡市博多区美野島4-1-62
竣工	平成23年2月7日
工法・階数	鉄骨造・7階建て（高さ32.2 m）
建築面積	4,211平方メートル
延床面積	28,251平方メートル
収容人員	最大3,000人
設備	1階：従業員食堂、健康管理室 2階：中央監視室、会議室、商談室、事務所 3階～7階：事務所

■セキュリティシステム概要

【敷地への入退場】

敷地境界は、人とシステムが連携して安全を保っている。工場周囲はフェンスで囲まれており、入退場門は警備員による有人監視が行われている。来客者は情報システムにより事前登録がされており、身分証との照合の上、ゲスト用のICカードが発行される。構内は撮影禁止のため、携帯電話をはじめ、カメラにはレンズ部分をシールで覆うことが義務づけられる。

車輛通行に関しては、ICカードリーダーによる車輛用ゲートが設置されている。来客者も含め、全ての入退場者が入場および退場の際に、ゲート脇のリーダーにカードをかざすことが求められる。

【E棟内のセキュリティ】

①入退室管理システム

E棟には100台以上のカードリーダーが設置されており、入室・退室の両方でカードをかざすアンチパスバックシステムが導入されている。一度、入退室の関係に不整合が生じると、以後そのカードが無効になるなど、社員の動線が厳格に管理されている。一方、無効になったカードは、E棟内の随所でリセットができるよう、運営面での配慮がなされており、柔軟な対応が行われている。

②CCTVシステム

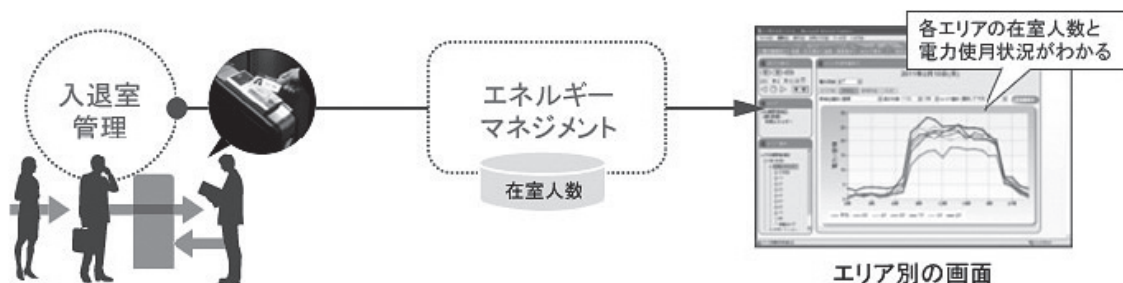
監視カメラは、E棟だけで120台を数え、出入口やエレベータホール、事務所など、隙間のない監視が実現されている。これらの画像は常時録画されるとともに、中央監視室や警備員室での場内監視に利用されている。CCTVシステムは入退室管理システムやエネルギーマネジメントシステムとも連携しており、各システムから、指定された時間、エリアの録画映像を瞬時に再生することができる。

③オフィスセキュリティ

同社のOA用パソコンは、使用する際、ICカード（社員証）が必要である。コピーやプリンタも社員証を複合機にかざさなければ印刷できないなど、オフィス内の随所でセキュリティシステムの導入が見られた。

④セキュリティ応用システム

昨今、セキュリティで扱うID情報の応用が期待されている。E棟では、このようなアプリケーションが随所に見られる。例えば、入退室管理を使って在室人数を把握しエネルギーマネジメントに活用する、入退場履歴のデータを利用し勤怠管理の効率を高める、食堂での料金精算に社員証を用いる、といったシステムが動作している。セキュリティの可能性を感じる分野である。



エネルギーマネジメントへの応用例（同社ホームページより）

【中央監視室】

E棟の2階にある中央監視室も見学させていただきました。複数名の職員が24時間体制で常駐し、入退管理システムやCCTVシステムなどのセキュリティ監視とともに、エネルギー使用状況を監視しており、緊急時には防災センターとして機能するそうである。

■環境ソリューション

屋上に足を運ぶと、E棟が持つもう一つの顔をうかがい知ることができる。480枚の太陽光パネル、屋上緑化が備えられ、夜間自然換気システムが動作している。エネルギーマネジメントが自然換気などを自動で行い、エアコンをほとんど使わずに、室内温度をほぼ一定に維持しているとのことである。さらに、セキュリティシステムと連動し、照明・空調の自動制御などを行い、効率的なエネルギー活用を実践している。

これらにより、E棟は環境性能総合評価 CASBEE※にて、最高位の「Sクラス」を取得しているとのことである。

※CASBEE (Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency) : より良い環境・品質性能 (Quality) の建築物をより少ない環境負荷 (Load) で実現したことを評価するシステム

■視察後の感想

今回見学した新棟のセキュリティシステムは、エネルギーマネジメントへの応用など、セキュリティシステムの新たな可能性を感じさせてくれた。厳格な動線管理など、導入当初はユーザーに困惑があったそうであるが、運用改善も進み、今では現行のセキュリティシステムがすっかり定着したとのことである。安全性と利便性を両立する、セキュリティの将来が楽しみである。

2. 福岡アイランドシティ「照葉のまち」

～「照葉のまち」における

地域セキュリティへの取り組み～

■「照葉のまち」について

「照葉(てりは)のまち」は博多湾埋立て地「福岡アイランドシティ」に立地する、福岡市の21世紀モデル都市である。福岡市は『新しいまちづくり』の理念として、

1. 人と地球に優しい環境共生のまち
2. 子ども・高齢者・障がいを持つ人が健康で生き生きとくらしていけるまち
3. 住民自らがまちづくりに参画し活力あるコミュニティを創造するまち

を掲げており、「照葉のまち」はこの理念のもとに、人と自然が調和し、かつ安全で利便性の高い先進的な都市として開発されている。

【照葉のまち概要】

- ・面積：約18ha
- ・入居開始：平成17年12月～
- ・人口：約4,000人（戸建住宅約200世帯、集合住宅約1,300世帯）（平成24年2月現在）
- ・周辺施設：アイランドシティ中央公園、アイランドシティ保育園、照葉小中学校、福岡ビジネス創造センター、その他医療福祉施設、警備員常駐基地など



福岡アイランドシティ全景



照葉のまち



コミュニケーションボックスによるホームセキュリティ

■地域セキュリティへの取り組み

「照葉のまち」ではこの『新しいまちづくり』の理念のもと、安全・安心なまちづくりを目指し、『まち全体』で防犯対策に取り組んでいる。用地や建物などの開発段階から、住民が入居した後の地域活動まで、ハード面、ソフト面で様々な施策が実施されている。

【24時間常駐型タウンセキュリティ】

「照葉のまち」の防犯対策の大きな特長として、まず、「タウンセキュリティ」と呼ばれる警備会社による24時間体制の常駐警備が挙げられる。まちの中央には警備員の常駐基地が設置され、警備員が24時間365日常駐している。警備員は主に地域のパトロールと、ホームセキュリティシステムによる緊急対応の2つの警備業務を行っている。

地域パトロールでは、毎日朝1回、昼2回、夜3回の不定期パトロールが実施されている。このパトロールも地域と密着した体制が常に検討されており、例えば子どもたちの登校・下校時のパトロールを強化したり、住民情報に対応した体制を取るなど、その時々の方々の実情にあわせ、フレキシブルに実施されている。

緊急対応では、各戸建住宅及び集合住宅に標準で設置されている「コミュニケーションボックス」と呼ばれるホームセキュリティシステムがまち全体で運用されている。異常が発生した場合は「タウンセキュリティ」の警備員へ自動通報され、直ちに現場へ急行する。まちに常駐する警備員が対応することで、迅速かつ適切な対処が可能なことも「タウンセキュリティ」

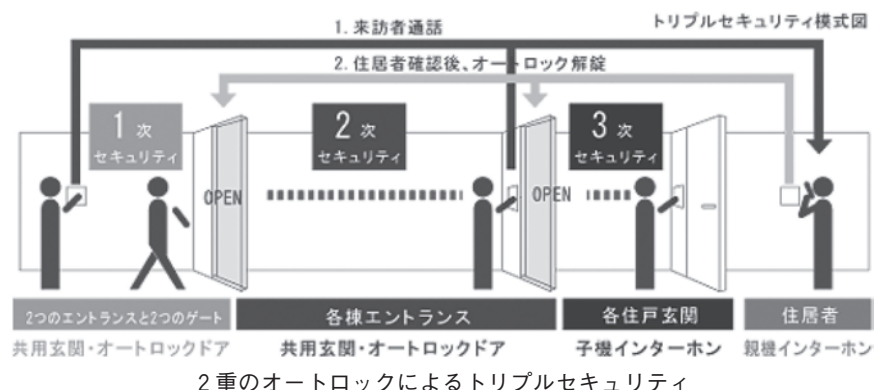
の大きなメリットである。異常発生からの通報からおおむね10分以内で現場に駆けつけることができるという。

【犯罪のおこりにくいまちづくり】

まちの景観は、電線などのインフラが地中埋設で整備されているため非常に開放感がある。戸建住宅では統計的に窓からの侵入による空き巣の割合が高いが、「照葉のまち」では、あえて塀などは設けず見通しを良くする事で、物陰に隠れた場所での犯罪発生を抑制している。「照葉のまち」の特長として多くの植栽が行われているが、こちらにも不審者などが身を隠すようなものにならないよう配慮されている。また、戸建住宅のエリア内は、生活道路が迷路のようにレイアウトされ、不審者がエリア内に入りにくく、かつ犯行後の逃走を困難なものとしている。



戸建住宅エリアの景観、レイアウト



集合住宅では共用部に2重のオートロックシステムと多数の防犯カメラが設置され、各住戸にも防犯性の高い玄関錠が標準採用されている。集合住宅における侵入窃盗では、戸建てに対し玄関からの侵入の割合が高い。2重のオートロックシステムと防犯カメラシステムは部外者の入館を厳しく制限・監視することが可能であり、防犯性の高い錠前も、施錠開け、ドア錠破りといった空き巣の侵入手段に対して有効な防犯対策となる。

【地域コミュニティによる防犯】

「照葉のまち」では照葉まちづくり協会「TCA」と呼ばれる自治会が組織されており、全員参加型のまちづくりと地域コミュニティの活性化に取り組んでいる。

まちの美化活動では地域住民全員参加の一斉清掃が定期的に行われている。まちの美観を保ち、地域住民同士のつながりを深めることは、犯罪発生の抑制にもつながっているようである。また、「TCA」は自治会以外の組織とも連携し、地域の防犯活動を行っている。例えば子どもたちの登校時にはTCAスタッフ、照葉小中学校の教員、タウンセキュリティ警備員が、下校時にはタウンセキュリティ警備員が協力してパトロールを実施しており、地域ぐるみで良い相互関係を築くことで、安心して子育てができる環境づくりがなされている。

■視察後の感想

これらの地域セキュリティへの取り組みは、「照

葉のまち」を「防犯意識の高いまち」と印象付けるものであり、犯罪自体を起こりにくくすることに成功している。実際に2005年のまちびらきから現在に至るまで、空き巣や窃盗などの犯罪は発生していないとのことであり、周辺地域と比べても非常に治安の良い状態を維持できている。ただし、今後のまちの成長に伴い増加する犯罪リスクに対し、地域住民、行政、民間企業がそれぞれどのように対応していくのか、今後も三者一体となって地域セキュリティの確保・維持に向き合っていく必要性を感じた。

謝辞：

今回見学にご協力頂いた、パナソニックシステムネットワーク社の橋本様及び、積水ハウス社戸田様には深謝申し上げます。



桑原 直樹（三菱電機株式会社）



中島 浩介（美和ロック株式会社）